

学校運営計画(4月)		評価(3月)			
学校運営方針	社会的自立の基盤となる、学力、体力、豊かな心を培うとともに、社会の変化に対応し、社会に「知恩感謝」の念を持ち、社会を支え、その発展に寄与する力を有したグローバルな工業技術者の育成を図る。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
【成果】 ・基本的な生活習慣の確立(遅刻欠席数の減少) ・自学自習の習慣化、及び資格取得の増加 ・コンテスト、競技大会等、ものづくり活動での実績 ・生徒会を中心とした生徒全体の学校行事への主体的取組 ・企業及び大学等の情報収集と的確な指導による進路指導の充実 【課題】 ・全クラスでの肅然とした授業規律の確立、意欲的な学習態度の育成 ・学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の推進 ・自己指導能力の育成と生徒会活動等、生徒の主体的活動のさらなる推進 ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応 ・資格取得、「ものづくり」教育、知的財産教育の充実 ・進路指導(ガイダンス、インターンシップ)の充実 ・キャリア教育指導計画に基づく、各部署と連携した体系的・系統的なキャリア教育の推進	1 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に積極的に取り組み、肅然とした授業規律のもと、確かな学力を育成する。特に、自学力(自分で学ぶ力、自ら学ぶ態度)の育成を図る。アクティブラーニングを推進し、生徒が主体的・対話的な学習を通してたくましく生きる力を育成する。 2 一人ひとりの個性、各科の特色を生かしながら、ものづくりへの態度を育て、工業高校生としての技術力の向上を図る。特に、資格取得、各種コンクール等への組織的、系統的な指導を推進する。 3 学校行事、生徒会活動、部活動等を通して、鍛え、挑戦させ、認め、評価することで生徒の可能性を伸ばし、心身ともにたくましい生徒を育成する。特に、部活動の活性化により、学校生活の充実を図る。 4 道徳教育を推進し、規範意識・人権尊重の精神を涵養し、自律心と思いやりの心にあふれた生徒の育成を目指し、生徒の自己指導能力の伸長を図る。特に、基本となる指導内容の統一を図る。 5 いじめ問題等については、いじめ防止対策推進法に基づき、「学校いじめ防止基本方針」を策定し、いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。 6 自己の在り方生き方を深く自覚させ、目標に向けて努力する学校生活の実現に向け、キャリア教育を組織的、体系的に推進する。特に、第1学年からの系統的指導を展開する。 7 専門高校として、生徒一人ひとりの希望と適性に応じた進路指導、職業教育を推進する。生徒の進路実現(第一希望 100%)を目指す。 8 国際的視野を備えた工業技術者を育成するため、英語コミュニケーション能力の向上を図るとともに、世界を舞台に活躍する高い志を育成する。特に、社会のグローバル化に対応した教育活動を展開する。 9 これからの時代を生きる生徒たちのために、タブレットパソコンなどのデジタル機器を積極的に活用するなど先進的な学習、指導方法を推進する。 10 地域に開かれた学校づくりの核として、学校行事を活性化させ、それを通じて、地域住民の「顔見知りの関係」「学校・地域への関心・理解」「課題を共有する関係」を深めていく活動を推進する。	1 授業改善への積極的な取組によるアクティブラーニングの推進 2 「創作工夫」の心構えを持ち、新しい事へのチャレンジ精神を育成する教育活動の推進 3 生徒会活動やものづくり活動における生徒の主体的取組の支援 4 全ての教育活動における「知恩感謝」の念と自己指導能力の育成 5 「学校いじめ防止基本方針」に基づく、組織的・継続的な、いじめ防止への取組の推進 6 キャリア教育指導計画に基づく、体系的、系統的指導とインターンシップの充実 7 生徒一人ひとりに対するカウンセリングや進路実現に向けてのアドバイスの強化 8 グローバル人材の育成という視点に立った工業教育の推進 9 ICT機器の活用による情報リテラシー教育の充実 10 体育祭、三工祭をはじめとする学校行事の外部への公開と広報活動の推進	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	教務課	各教科、担任、学年、生徒育成部、進路指導部と連携し、授業規律の確立と意欲的な学習態度の育成を図る。 自学自習の効果的な活用を図り、確かな学力の育成および資格取得の増加を推進する。	A B B	A	・各教科、各部、学年等と連携し、自学や宿題・基礎力テストを実施し、基礎学力の向上を図った。考査前の35分自学は効果的であったが、15分自学は短いようである。また、放課後は、部活動の時間を確保してほしいとの要望もある。 ・学校生活アンケート、学年チェックリスト等を活用し授業規律の確立や意欲的な学習態度の育成を図った。各学期、学年集会等で、主体的に積極的に学ぶ大切さを教え、たくましく生きる力の育成を行った。 ・各教科、担任、保護者との協力的体制のもと成績不振者に対する丁寧な指導を行い、成績の改善・学力の向上を図った。 ・3系5学科の特色を活かし、各系の基礎知識や技能を身に付けさせ工業技術者の育成を行った。しかし、教育課程や設備等の問題点が発生している。次年度の学科編成、授業計画など共通理解が必要である。 ・欠席遅刻の指導報告では、報告入力や資料提供が遅れているため次年度は改善を図りたい。 ・限られた予算の中で適切な選書を心がけつつ、古書の整理廃棄など書架の新陳代謝に努めてきた。今後は、社会の出来事や各種記念日などに対応した図書展示など、レイアウトやイベントを工夫したい。
		アクティブラーニングを推進し、生徒が主体的・対話的な学習を通してたくましく生きる力を育成する。 各教科、担任、保護者との協力的体制のもと成績不振者に対する丁寧な指導を行い、成績の改善・学力の向上を図る。 全教科を通して、道徳教育の推進およびコミュニケーション能力の育成を図る。	A B B		
		3系4クラス学科の特色を活かして、幅広い基礎知識を身に付け、「ものづくり」等の実践の基礎を育成する。 出欠状況の統計をとり、欠席・遅刻の多い生徒について各担任、学年、生徒育成部等と連携し、継続的な指導を行う。 生活アンケートを実施し、生徒の日常の学習状況を把握し、生徒理解・指導の資料として活用する。 担任団との連携を密にこもり生徒の学習状況を把握し、授業改善に向けた取組を行う。 定期考査の計画・実施を円滑に行い、教室の整備、監督の徹底等を図り、公正確保に努める。 各種資格取得の推進を図り、取得状況の把握を行う。	B A A B A B		
図書課	図書館利用を通して、知に親しむ生徒の育成	図書館をインターネットとは異なる利点を持つ情報の入手経路として位置づけ、昨年以上に授業での活用や日常の来館者の増加を図り、貸し出しの促進のための工夫をする。 学習活動に必要な蔵書等の資料を充実させるとともに、レファレンスサービスや広報に努める。 朝の10分間読書に継続して取り組み、読書に親しむ雰囲気醸成する。 図書委員会活動をサポートし、各種研修会等への積極的な参加を促す。読書週間のイベントを企画する。	A A A A	A	
		生徒指導 ・自己指導能力の育成 ・いじめ防止への取組の推進 交通指導 ・交通安全マナーの徹底	A B A B A		
生徒育成部	生徒指導課	生徒に帰属意識を持たせ、チーム三工の一員として自覚ある行動ができるよう援助し育成する。 挨拶・返事・校歌斉唱等、「知恩感謝」の念を持ち自ら自信を持って行えるよう育成する。 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応の組織的な取組を徹底する。	A B A	A	・生徒に帰属意識を持たせるために「チーム三工」を掲げ自覚ある行動を促した。生徒会を中心に、学校全体に浸透するような取組が必要である。三工生としての帰属意識やチーム意識を持たせることで、自己指導能力の育成に繋げていきたい。 ・生徒の主体的活動においては、生徒会を中心として、体育祭等の学校行事で自主的な取組がなされ、一定の成果を挙げることができた。今後、更なる活性化を図るために、リーダー研修等を充実させ、真のリーダーシップが執れる人材の育成が必要である。 ・職員一丸となって積極的な生徒指導を推進していかなければならない。
		各委員会に責任を持たせ、具体的方策を立て取組ませることで、主体的運営の促進を図る。 清掃委員会を中心に、定期的に強化週間・重点区域を設け、校内清掃の徹底を図る。 学校行事においては、外部への公開と広報活動を推進し、地域に開かれた学校づくりを目指す。	B A A		
	健康な心身の育成および自己管理ができる生徒の育成	A A	A		
	保健課	各学年ごとの個人面談を実施しカウンセリングのきっかけをつくり、必要な生徒への支援体制を整え、支援する。 保健室入室の生徒の状況を把握し、担任と連携を取りながら個別指導を行う。 校内の水質検査や消毒液の補充等を行い、環境衛生の整備を図るとともに、保健便り等を通じて感染症予防の啓発を図る。 リーダーを育成するとともに、環境、広報、調査統計の各委員会の活動の成果を発表させ、生徒会行事の成功に努める。 健康診断で、疾病のおそれのある生徒に治療勧告を行い、自己の健康管理を促すとともに、疾病予防の指導を行う。 薬物乱用防止教育や各種講演会を行い、正しい知識と強い意志、いのちの大切さや人権尊重の意思を身につけさせる。		A A B A B B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
進路指導部	進路指導課	進路希望の実現	進路に対する早期の意識づけを図り、生徒一人ひとりに対しカウンセリングや進路実現に向けてのアドバイスを行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスの充実および進路講話を実施し、進路に対する早期の意識向上を図り、進学・就職率共に100%を実現する。 ・早い段階から進路指導室の利用を促し、職業理解や就労感を深める。 ・就職については一次合格率90%以上を目指すとともに不合格者に対する個別指導の充実を図る。 ・進学については早期の意識付けと入学試験に充分対応できる基礎学力を身に付けさせる。本年度は、私立大8名、専門学校に23名が合格した。 ・公務員については本年度は東京都庁(土木)、国家一般(技術)、直方市役所(土木)、自衛隊(一般曹候補生)に合格している。次年度も公務員希望者対象の朝課外を実施する。 ・インターンシップ(2年次)の充実と改善を図る。 ・それぞれの課外(進学・公務員・実力養成)の充実を図る。 ・学年及び学科との連携強化を図り、ミスマッチをなくすよう企業訪問を充実させる。 ・進路指導に関する資料や情報の整理・管理を行い、有効に活用できる環境を整備する。 ・生徒がパソコンを利用しやすい環境をつくる。
			進路指導委員会を主軸として、関係部署との連携を深め、組織的な就職・進学指導を行う。	A			
			就職採用試験一次応募での合格率90%以上を目指す。	B			
		企業が求める人材育成	地元・県内・県外の企業訪問を行い企業が求める人材、及び仕事内容を直接聞くことにより進路指導に生かす。	A			
			望ましい職業観・勤労観、及び職業に関する知識や技能を身につけさせる。	A			
		公務員課外(二年生と三年生)を実施し受講者の意識を高め合格者の増加を図る。	A				
		環境や目的に応じて言葉や顔の表情・身振り手振りを使い分け力(コミュニケーション能力)の向上を図る。	B				
		マナー指導および社会常識を養い、「元氣な挨拶」「礼節を重んじる心」を育成する。	A				
		進路指導室でパソコンを開放し、インターネットを活用した企業情報、求人情報、進学情報の収集等、IT活用能力を育成する。	B				
		キャリア教育推進課	キャリア意識の向上	進路に関するガイダンス等を通じ、情報収集能力と意思決定能力を高める。	A	A	
	進路実現に向けた学力の向上	キャリア教育計画に基づきLHR活動の体系化と充実を図り意識付けをする。(ポートフォリオ等)	A				
		インターンシップ(2年次)を実施することにより、職業理解や自分理解を深める。	A				
		サクセスやSPIなどの活用を図り校内校外模試等を有効に活用し学力の向上を図る。	B				
		公務員希望対象者の朝課外を実施する。ならびに、それぞれの課外(就職、進学、公務員)の充実を図る。	A				
		家庭学習の充実に向けた方策を工夫する。	B				
			A				
			A				
			A				
			A				
企画・情報部	企画課	広報課と連携し広報活動を企画する	広報課と連携し広報活動を企画する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の案内をメール等を活用して保護者への周知を図ると共に、積極的な参加を促したい。 ・PTA活動に対して保護者への理解を深めて、活性化を図りたい。 ・学校行事等の活動内容や成果等を広めることで、保護者や地域の方々へ学校理解を広めたい。 	
		学校行事等での広報活動を企画する	学校行事等の活動内容を更に広め保護者・地域の学校理解を深める。	B			
		PTA活動の活性化	PTA活動やさまざまな行事等への保護者の参加を呼びかけ積極的な活動を築いていく。	B			
			PTA活動に対して保護者の理解を深め更なる活性化を目指す。	A			
		行事日程等の調整	学校行事等の企画と調整を早めに行い円滑な運営を目指す。	A			
			月別、学期別に行事を確認する。	A			
	広報課	中学生のための進路相談事業と体験入学の成功	進路相談事業でのステージ発表・学校PR・個人相談を成功させる。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学については、効率的で魅力的なものとするため、日程をみなおす。 ・学校案内はデータの蓄積を充実させる。 ・『三エニュースレター』は形を変えて刊行する。
		企画課とタイアップし、体験入学の内容を充実させ成功させる。		A			
		学校案内のレベルアップとホームページの充実	他校に例を見ない次年度版学校案内を年内に完成させておく。	B			
			ホームページをこまめに更新し、こまやかな情報発信を意識する。(学校通信の配信など)	A			
	中学生に対する説明会の充実と学校通信の充実	中学生に対する説明会を充実させ魅力あるものとする。	A				
		『三エニュースレター』、『創作工夫通信』、『PTA新聞』の刊行物を出す。	B				
研修課	研究授業・公開授業を授業改善に結びつける	研究授業・公開授業の期間を一か月間に絞り、全ての教員が参観するように期間後フォローする。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 全員の先生方が参加できるように研究授業の在り方を考える必要がある。また、研究の進め方や指導案の書き方など外部講師を招いて研究の在り方を考えている。研究紀要の作成についてはその都度フォルダに入れて貰うように計画・指導する。 		
	初任者研修の研究授業に加え、各教科毎の研究授業を呼びかける等、主体的に多数参観する施策を盛り込む。		A				
	校内研修会を就職指導と授業改善に役立つものにする	キャリア教育研修会を年に3回実施し、各科の就職指導の良いところを共用し合うようにする。外部講師を依頼する。	A				
		アクティブラーニングについての授業研修会を取り入れる。	A				
	研究紀要の原稿の柱にアクティブラーニングをおこし教科毎に一年間の成果を書いてもらう。	A					
	研究紀要と学校自己評価を充実する	学校自己評価の作成を円滑に行い、周知、共有化を図る。	A				
情報課	ICTを用いた授業の推進	研究授業や公開授業において電子黒板などの積極的なICT機器の活用を呼び掛ける。	A	B		<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板等の利用率の向上 ・電子黒板利用を希望する授業の教室重複の解消 ・電子教材が使用できる教室環境を追加整備 ・教育情報ネットワークデータベースの更新 ・ネットワーク配線の再点検 	
	CAI教室の活用を拡大させたり、特別教室にICT機器を設置したりするなど、ICT教育の環境をサポートをする。		B				
	校内ネットワークの維持・管理	サーバ内の整理・整頓や、連絡黒板をのさるるる活用など、ネットワークの使いやすい環境を整える。	B				
		校務用パソコンの入れ替えに伴う保守・管理を円滑に進め、快適なネットワーク環境を維持する。	B				
	情報セキュリティの確保	自動アップデートソフト、ウイルス対策ソフトをインストールし、セキュリティの確保を行う。	B				
		生徒用コンピュータのセキュリティ対策を定期的実施する。	B				
1学年	教科指導	自学の時間を確保し、毎日こつこつと学習する習慣を身につけさせる。家庭学習の習慣化。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導に関しては、資格取得向上に向けて自学の時間や家庭学習などを利用して強化する。 進路指導に関して、勤労観や職業観の育成を図るために、外部講師による講演などを計画的に行う。 携帯電話等の取扱いに関しては、生徒育成部と連携を図り、校則に従う習慣を身に付けさせる。 特別活動に関して、加入率の向上を目標に挙げているが果たせなかった(目標90%以上、実際87.3%)。今後も未加入者への積極的な声かけを続けていく。 		
	・学力の向上および成績不振者への対策	成績不振者に対しては、教科担当者との連携を図り、個別指導を行う。	A				
	・資格取得の向上	資格取得についての意識付けを行い、受験する資格は各科との連携を取り、全員合格を目指す。	B				
	生徒指導	服装頭髪指導を徹底し、校則遵守の意識付けを行う。	A				
	・校則遵守および時間厳守	5分前行動を徹底指導し、チャイム始業を遵守する習慣を身に付けさせる。	B				
	・いじめのないクラスづくり	個人面談やいじめアンケート記載事項などを活用し、生徒一人一人が大切な存在であることを意識させ、他者への気配りができる生徒育成を目指す。	A				
	進路指導	学科選択へ向けた取組が計画的・系統的にできるよう、有効な情報の提供と意識付けを行う。	A				
・進路実現に向けた早期取組	3年後を見据え、社会人として如何にあるべきかを常に意識させるとともに、勤労観・職業観の育成を図る。	B					
	早期課外への参加を徹底させ、資格取得は将来の自己形成に有意義であることを意識付けさせる。	A					
特別活動	集会ではきちんと顔を上げて人の話を聞く姿勢を身に付けさせる。	A					
・学年集会および学校行事の充実	学年に属する職員全員が生徒の前で話をする機会を設ける。	B					
・部活動の活性化	部活動への加入を推進し、加入率の向上を目指すとともに活気ある学校の雰囲気づくりを目指す。	B					
2学年	教科指導	担任と教科担当者との情報交換を密に行い、教務課及び保護者との連携をとり、徹底した個別指導にあたる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ①教務の観点から、2学期の欠点保有者が34名、そのうち3科目以上の欠点保有者は11名おり、学習に対する基礎が十分に備わっていない。進路意識の向上や勉強の仕方などの観点から個別に支援していく。 ②進路の観点から、早い段階で求人に関する学習ができたクラスとそうではないクラスでばらつきが出た。科の特性から時期のズレが生じた。生徒の特性に応じた進路選択をさせていく。 ③生徒指導の観点から、積極的な生徒指導が不十分である。学年内のクラス間の垣根をなくし、どのクラスにも同様に指導できる環境整備を進めたい。日常のルールを徹底させ、問題行動をなくす。 		
	・成績不振者の対策と資格取得の向上	残り2年間でのジュニアマイスターの称号取得に向け、科との連携で計画的な資格取得に向けた指導にあたる。	A				
	生徒指導	「止まって挨拶・黙想」を徹底し、社会のマナーを身に付けさせる。	A				
	・挨拶の充実	生徒と教師との人間関係の確立に重点をおき、元氣に挨拶ができる生徒育成に力を入れる。	B				
	進路指導	早い時期から進路ガイダンスを行い、勤労観、職業観の育成に力を入れる。(インターンシップの成功)	A				
	・進路実現に向けた早期取組	SPIを自学で取り組むなど進路実現を目指し、常に向上心を持続させる指導にあたる。(就職・進学の朝課外の充実)	B				
	特別活動	生徒一人一人を把握しやる気を持たせ、クラスづくりや仲間づくりを力を入れ、いじめ防止等に努める。	B				
・HR及び学年集会の充実	学年団が各部署と連携し、いろいろな話しをしてもらって体制づくりを行い、聞く力・話す力を養わせる指導にあたる。	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題		
3学年	教科指導 ・成績不振者の対策と資格取得の向上	担任と教科担当者ととの情報交換を密に行い、教務課及び保護者との連携をとり、徹底した個別指導にあたる。	A	A	192名全員の卒業を目標に頑張りと、無事何と卒業することができた。就職進学においては、学校推薦にて応募した生徒全員が、今年度も年内に(100%)決定することができた。また、3か年皆勤42名・1か年皆勤31名・精勤43名と3年生の6割の生徒が精勤と社会人になる心構えが養成されていることは評価できる。しかし、体育祭終了後くらいから、基本的な生活習慣が少くづれてきた生徒がいた。本校の抱える課題の一つと言える。 生徒指導に関しては、概ね生徒・職員の情報関係も良好で、学校行事もリーダーシップを発揮し、後輩たちへの指導も頑張ってくれた。今後進学者は更に勉強を、就職者は社会人の心構えをしっかり持って仕事に邁進してもらいたい。		
	生徒指導 ・何事においても時間厳守	「当たり前前ことを、当たり前に行う。」指導の徹底に力を入れる。	B	B			
	進路指導 ・進路実現に向けた取り組み	進路ガイダンスを行い、勤労観・職業観の育成に力を入れる。 資格・検定試験へ生徒自らが主体的にチャレンジし、ジュニアマイスター認定12名以上をめざす。	A	B			
	特別活動 ・HR及び学年集会の充実	生徒一人一人を把握しやる気を持たせ、クラスづくりや仲間づくりに力を入れ、いじめ防止等に努める。	A	A			
		学年団が各部署と連携し、いろいろな話しをしてもらい体制づくりを行い、聞く力・話す力を養わせる指導にあたる。	A	A			
電子機械科	検定・資格取得の推進	専門知識と技術の深化・統合化をはかるとともに、学ぶ意欲や自学自習力の向上を図る。	B	A	2級技能士(普通旋盤作業)の難関の国家試験に2年生ながら3名チャレンジし、全員90点以上の高得点で合格を果たした。後期に行われる3級技能士については、例年の3倍以上の16名の生徒が受験する予定であったがインフルエンザのため半数が受験した。次年度のものづくりコンテスト対策のため、高校生では受験資格のない1級技能士の内容についてもチャレンジし、その技術を取得しており来年度が期待される。		
	ものづくりを通じた学習指導	ものづくりコンテストの上位入賞および、技能検定の上位資格取得をめざし自立心ある生徒を育成する。	A	A			
	あらゆる機会を捉えての生徒指導	実習その他あらゆる機会をとらえ、QC活動(工具管理、清掃)を実践すると共に、安全教育の徹底をはかる。 礼儀正しく元気な挨拶、服装頭髪を整え遅刻欠席を減らす等、機会あることに指導し、精勤・皆勤者9割以上をめざす。 生徒自らの望ましい勤労観や職業観の育成と進路実現のための支援指導を科全職員であたり魅力ある科を目指す。	B	A			
電気科	学校生活 ・元気はつらつな電気科を継続、発展させる	皆勤+精勤合計85%以上をめざす。(昨年度81%) 特にな欠席、遅刻等が多い生徒は、科で指導する	B	B	・精皆勤率1年76.9%、2年82.5%、3年55.2%、計71.1%。体育祭優勝等積極的に活動できた。 ・ホームページを3回更新できた。来年度の課題は、出席状況の良くない生徒に対する指導を充実させる。 ・第二種電気工事士合格3年4名、2年35名、合計39名。第一種電気工事士合格3年6名、2年11名県下トップクラスの合格者だった。来年度の課題は、第三種電気主任技術者試験の科目合格者を出すこと。 ・ものづくり大会は残念な結果に終わった。ソーボート4位入賞。競技ロボット予選敗退。IoTカ-全国11位。技術7デ7コンテ18年連続応募数全国一、佳作入選1件。来年度の課題はものづくり大会が本校開催なので、上位入賞を目指す。 ・大手企業は、ほぼ内定をいただいた。就職試験一次合格率83%。来年度の課題は地元の有名企業への内定と一次合格率の上昇させたい。		
	資格取得 ・電気科の全職員で指導 ・資格勉強の仕方まで教え、自学自習を習慣化させる	第二種電気工事士の合格者をさらに増やす(昨年度3年生4名、2年生30名、合計34名) 第二種電気工事士の、クラス全員合格を達成する 第一種電気工事士の合格者をさらに増やす(昨年度2年生6名、3年生2名、合計8名) 第二級陸上特殊無線技士の合格者をクラス9割以上まで増やす(昨年度34名)	A	A			
	ものづくり ・課題解決能力と「創作工夫」する力を育成する	ものづくり大会電気工事部門に出場し、上位入賞を果たす(昨年7位) 技術アイデアコンテストに応募し、入賞を目指す(昨年度10件応募、2件佳作入選) ソーラボート大会に出場し、優勝をめざす(昨年度全国4位入賞)	B	A			
	・主体性と「知恩感謝」を育成する	競技ロボット大会に出場し、入賞と全国大会進出を目指す エコデッカー大会に出場し、優勝を目指す(昨年度全国7位)	B	A			
	進路指導 ・大手企業に多数内定させる ・進路決定100%を早期に達成する	大手企業への多くの内定を勝ち取る。 就職試験一次合格率90%以上を目指す(昨年度89%) 進路決定率100%を昨年より早く達成することを目指す(昨年度11月末に達成)	B	B			
	情報電子科	基本的な生活習慣の確立	規則正しい生活習慣を身につけさせ、睡眠時間の確保と確りとした朝食を取り、毎日の体調管理を考えさせる。 前年度より、遅刻、欠席、早退の減少を目標に指導し、皆勤賞、精勤賞の人数を増やす。	B		B	・出欠状態については、1年生メカトロA、B並びに2年生とも、欠席、遅刻、早退が昨年度よりかなり減りました。3年生については、欠席、遅刻、早退とも昨年度より増え、少しだれてしまいました。次年度の課題です。 ・資格取得について1年生メカトロA、Bは校長会の各種検定については95%以上の合格で頑張りました。危険物乙4類が合計8人と昨年度より減少したのが次年度の課題です。2年生については、国家資格・検定である工事担任者D三種に14名合格、電子組立技能士3級に14名合格と昨年度より多く取得できました。来年度も資格取得に力を入れたいと思います。
		基礎学力の向上と進路実現のための学習力を身につけ、目標の進路を達成させる。	基礎学力を確実に身につけさせ、応用問題、技術に繋がる力を養う。 確りとした進路目標を持たせ、目標実現のための計画と取組みと努力を達成させる。	A		A	
		企業が求める人材の育成	実習、課題研究等で基礎的専門技術力を身につけさせる。ロードレースや体育祭等でチームワークの重要性を理解させる。 各種の資格取得者増を目標に指導を行い、企業が求める人材をよく理解させ、仕事人としての心を養う。	B		B	
	土木科	思いやりの心を持つたくましい人材の育成	ロードレースや体育祭などの学校行事を通して、チームワークや協調性を身に付けさせる。 健康管理や時間を守ることの大切さを教え、皆勤・精勤の増加を図る。 整理整頓の大切さを教え、卒業後社会人としての意識の向上を図る。 挨拶の励行や服装を整えさせ、マナーの向上を図る。	A		A	・1年生の社会基盤系を含めて、欠席・遅刻・早退が減少した。 ・学校行事を科で取り組む中に3・2・1年生と先輩・後輩の人間関係が出来て今までにない良い雰囲気が出てきてよかった。 ・資格取得については測量士補の合格数2名と減少したが、2級土木施工管理技士学科試験においては12名に増え、昨年度の2倍近く増えてきた。 ・卒業生の声を生徒に伝えることで、生徒たちは進路に対する意識が上がり意欲的になり内定につながった。 ・一部の生徒が学習や進路に意欲のないところがあり、前向きな気持ちを引き出させたい。
		確かな学力を身につけさせ、進路実現を図る	ICTを利用し、視覚より生徒の理解を深める。 授業改善を図り、生徒個人の状況に応じた指導を行う。 企業訪問の情報を活用し、各生徒に応じた進路指導を行い、就職合格率の向上を図る。 全職員で朝課外を実施し、公務員合格者の増加と学力の向上を図る。	A		A	
土木技術者の育成と広報活動の向上		補習授業を行い、測量士補・土木施工合格者の増加を図る。 測量競技県大会、つまようじタワーコンテストにおいて上位入賞を目指す。 ホームページ更新を適宜行い、中学生や地域の方々にアピールを行う。	B	B			
		基本的な生活習慣を確立させ、精勤率・皆勤率を合わせて70%を目指す。 頭髪・服装、挨拶・言葉使いなど規範意識と礼節を重んじる態度を育成する。 生徒が学校に誇りを持ち、学ぶ意欲が向上するように、科の職員全員で指導に取り組む。 研究授業等を活用し、様々な視点から生徒がわかりやすい授業の展開を研究する。	B	B			
工業化学科	基本的な生活習慣と規範意識の確立	キャリア教育を体系的・系統的に推進し、進路目標に向けて努力する学校生活の実現を目指す。 生徒の希望と適性に応じた進路指導を充実させ、進路実現(第一希望100%)を目指す。	B	A	・社会基盤系において工業化学科の希望者が少なかった。中学校へのアピールおよび1年生に対する指導の充実とアピールが課題である。 ・次年度はものづくりコンテストの会場校となるので、出場生徒の指導を充実させて優勝を目指したい。 ・2、3年生の遅刻、欠席が多かったため、基本的な生活習慣を身につけさせるための指導が課題である。 ・規範意識と礼節を重んじる態度が十分には身につけていない生徒がいるので、その指導が課題である。		
	基礎・基本の学力向上と進路実現に向けたキャリア教育の充実	危険物取扱者等の資格試験を積極的に受験させ、危険物取扱者では5名以上の甲種合格を目指す。 課題研究・実習を充実させ、より多くの体験からものづくりに興味を持たせる。	A	A			
	創意工夫と主体的に行動できる化学技術者の育成	ものづくりコンテスト福岡県大会化学分析部門で優勝を目指す。	A	B			